

## 地域ブロック情報



日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。  
今号は、東北地域ブロックご紹介いたします。

### 東北地域ブロック から

第4期東北地域ブロック担当理事  
都築 光一（東北福祉大学）

東北部会では例年、東北6県の持ち回りで研究大会を毎年7月に開催し、講演やシンポジウムのほか、会員による自由研究発表を実施している。ここ数年では、概ね15件～20件程度の研究発表がなされているほか、2015年度の青森大会からは、ポスター発表も実施するようになった。

この研究大会で研究発表を行った会員に、研究誌「東北の社会福祉研究」への投稿を認めている。投稿件数は多い年もあれば比較的少ない年もあり、傾向としては一定してはいないものの、複数の査読担当者による査読結果を経て、研究誌を発行している。

研究大会はこれまで15回実施しており、2016年度で16回目となる。このうちここ5年ほどは、東日本大震災に関連した発表が少なからず報告されているほか、基調講演やシンポジウムの多くは、震災からの復興とその後の少子高齢化、および人口減少の顕著な東北の地域の今後のあり方を考える内容が、多くを占めるようになっている。中でも東日本大震災が発生した2011年および2012年の2か年にわたって、日本社会福祉学会連合との共同で実施した研究活動は、災害時における福祉支援のあり方について、東北の関係者が全国各地の研究者と多角的に検討する貴重な機会となった。

震災から5年が経過して人々から災害時の福祉支援の必要性などの記憶が遠くなりつつある今日、昨年の関東東北集中豪雨や熊本地震の発生を受けて、被災者の中の福祉支援を必要とする地域住民に対する支援のあり方が問われることによって、改めて東日本大震災の教訓をどう活かされているのかが、議論されてきている。こうした状況を踏まえ、2016年7月24日（日）いわき明星大学において、平成28年度の東北部会研究大会の中で、東日本大震災からの教訓を今後どう生かしていくのか、シンポジウムによって議論を深め今後につなげていく予定である。